



発行責任者: 歯学部長 榎 宏太郎, 編集責任者: 広報委員長 野中 直子
5号編集委員: 石川 健太郎
〒142-8555 東京都品川区旗の台1-5-8 TEL: 03-3784-8000



昭和大学歯学部口腔解剖学講座の教授に就任しました

口腔解剖学講座 野中 直子

令和3年4月1日付で、昭和大学歯学部口腔解剖学講座の教授を拝命いたしました野中直子です。私は、昭和大学歯学部8回生で、卒業後は保存修復学講座を経て、昭和大学大学院歯学研究科で口腔解剖学を専攻いたしました。大学院修了後は、口腔解剖学講座に入局し、講師時代には、米国セントルイス大学医学部内科学講座に2年間留学いたしました。



このたび、母校の教授に就任いたしましたことは、大変光栄なことであり、また、身の引き締まる思いでいっぱいです。ここ数年、富士吉田キャンパスでの講義・実習のため、富士吉田に行く機会が多くなりました。富士山を眺めながら入寮した頃を思い出し、今回、教授に就任させていただくことができましたのも、あの頃から長きにわたり、昭和大学でご指導いただいた先生方や歯学部同窓会の先生方のお陰と感謝いたしております。

私が担当いたします「解剖学・口腔解剖学」は、医学・歯学の根幹となる学問です。当講座は、人体の正常な構造・機能を理解することを基本に、基礎科目と臨床を関連付け、臨床に役立てることができる基礎教育を目指していきます。また、歯学部教育の特徴である「歯の解剖学」は、適切な歯科医療を行うために重要で、1年次から歯科医師になるという意識を確立するためにも欠くことができない基本となる科目です。解剖学・口腔解剖学の講義・実習を通して、微力ながら歯科医師の育成に貢献していきたいと考えております。

昭和大学が医系総合大学としてさらなる発展を遂げるよう、建学の精神である「至誠一貫」を実現し、研究・教育に努力してまいります。今後ともご指導とお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

松本歯科大学口腔顎顔面外科学講座の教授に就任しました

松本歯科大学口腔顎顔面外科学講座

栗原 祐史

21期生の栗原祐史でございます。このたび、松本歯科大学口腔顎顔面外科学講座の教授を拝命し、本年4月1日より赴任させていただくこととなりました。



これまでご指導頂きました代田達夫教授、嶋根俊和教授をはじめとする口腔外科学講座医局員、歯学部各講座の先生、そして歯科病院各部署の皆様にご場をお借りして改めて感謝申し上げます。

私は大学卒業後には、他大学口腔外科での研修を考えていました。しかし、当時の第二口腔外科学教室の入局説明会にて、主任教授の南雲正男先生に進路についてお話ししたところ、「自分の大学の口腔外科を盛り上げないでどうする。」とのこと言葉を頂戴し、その場で入局を決めたことを今でも記憶しております。在籍中は講座の統合や再編など、厳しい時期を何度か経験しましたが、常に医局の和を大切に、講座内外の連携に努めてまいりました。最近では、昭和大学が取り組んできた学部連携 PBL を入学時より行ってきた学生が医局員となり、医局内のみならず各科との連携を自ら行い、チーム医療を実践している姿を目の当たりにし、昭和大学の教育改革の成果を現場で実感するとともに、若い世代の活躍を頼もしく感じておりました。赴任致します松本歯科大学は近年国家試験の合格率が上昇しており、特色ある教育や研究を盛んに行っております。今後は昭和大学で培った知識と経験を生かし、その一翼を担う立場として次世代の優れた医療人の育成と地域医療への貢献に努めていく所存です。まだまだ未熟者ではございますが、今後ともご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、昭和大学歯学部の益々のご発展と一刻も早い新型コロナウイルス感染症の終息を祈念し、私のご挨拶とさせていただきます。

令和3年度白衣授与式が開催されました

歯学部長 榎 宏太郎

令和3年5月11日（火）に上條記念館にて第5学年100名への白衣授与式が執り行われました。長谷川教授の司会進行のもと、学部長告示に続いて5年生代表の木内彩紀さんに白衣が授与されました。その後、小口理事長と久光学長からご祝



辞を賜り、研修医の杉本卓海君から先輩の言葉が贈られました。そして、東郷健真君の昭和大学宣言の後に閉式され、ご臨席頂いた上條副理事長、馬場病院長、飯島教育委員長、上條学生部長、鈴木衛生士長ら全員で記念写真が撮影されました。本稿に改めて、私から学生諸君にお話した内容を抜粋します。

*

臨床実習では、再度、Professionalism について深く考え、社会は自分に何を求めているのかを理解し、それに応えるためになすべき事を思い出して下さい。その基盤には、卓越性、ヒューマンイズム、説明責任、利他主義があります。本学の“至誠一貫”という言葉にもこの Professionalism の大切さが示されております。そして、歯科病院では全職員が一丸となって診療に励み、様々な疾患と戦っています。今までのような快適な環境下で、教えてくれるのが当たり前と思う精神から脱却し、臨床の現場に存在する“混沌”や“複雑性”を知り、その中から学び取ることに挑戦して下さい。この苦しい環境下で学ぶ姿勢があつてこそ、専門的能力は成長します。さらに、その過程では、現在の歯科医療に対する批判的な眼も必要です。こんな診断装置があれば便利なのに、こういう薬さえあればもっと早く治せるのに等々。歯科医学を改革するための創造力や夢も大切にされてください。

*

皆さんが感染対策を含めて真摯な態度で実習に臨まれ、実りある一年になることを心よりお祈り申し上げます。



至誠塾修了式が開催されました

美容歯科学部門 菅井 琳太郎

令和2年度昭和大学至誠塾修了式が4月21日（水）に上條記念館、上條ホールで開催されました。私の在籍した16名の11回生は、2年間の修業を経て無事に修了式を迎えることができました。至誠塾は職種を問わず全職員を対象に、大学の運営や仕組みを学ぶ場として平成21年に開塾されました。1年生は小口理事長をはじめとする講師先生方に講義を頂き、講義内容についての討論、発表形式で行います。2年生では各自が掲げた研究テーマを1年かけて実行するという内容になります。

昨年より猛威を振るっている COVID-19 の影響で思うように研究課題が進まないことや、緊急事態宣言中の至誠塾閉校などの影響で修了式も1か月延期してしまいました。しかし最後には塾生全員が自身の研究をやりきることができました。修了式では修了書の授与と共に、今後昭和大学を発展させるため各部署の先頭に立って頑張ってもらいたい、という激励を頂き、閉式となりました。至誠塾で出会ったこの16名とのつながりを大切に、部署は違いますが今後の昭和大学発展のために貢献できるよう、一丸となり努めていきたいと思っております。



在宅チーム医療と倫理 TBL II を行いました

口腔衛生学部門 弘中 祥司

令和3年度の学部連携教育「TBL II 在宅医療を支える NBM と倫理 II」が医・歯・薬・保健医療学部2年生を対象に行われました。

この教育は、1年生のシナリオの続編で、元気だった主人公の祖母が認知症を発症し、徐々に要介護状態となって行くシナリオです。これまで、対面で行ってきた TBL も COVID-19の影響で、Google Meet 上でのグループ学習となり、学修者の生徒諸君はもちろんのこと、ファシリテータの教員、さらには、同時にたくさんのグループを支援するタスクの尽力によって成り立っています。実際の学生さんの実習は1日ですが、36グループずつ2日で稼働します。幸い、学内 LAN も強化されているため、実習にはほとんどと言って良いほど支障はありませんでした。コロナ禍で1年生を過ごした学生が対象ですので、PC 上でのグループワークも問題なく出来ている点は、感心致しました。今回までは、「祖母の気持ちに寄り添う」点が主眼ですので、専門的知識はあまり必要としませんでした。次年度のワークでは各学部での学修が進むことで、より専門性の高い意見が出るとお思いますので、今から楽しみにしております。



行事予定

広報委員長 野中 直子

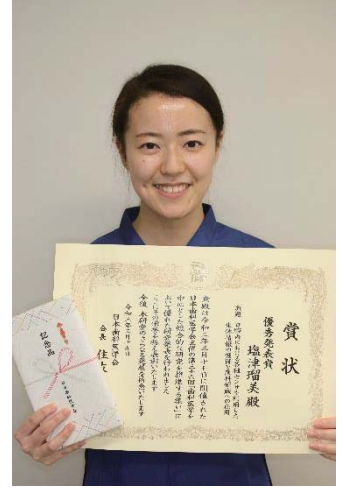
6月 5日(土): 父兄会総会(誌面開催)

6月26日(土): 昭和大学学士会例会

「第36回歯科医学を中心とした総合的研究を推進する集い」優秀発表賞を受賞しました

歯科矯正学講座 塩津 瑠美

この度、日本歯科医学会が主催する第36回「歯科医学を中心とした総合的な研究を推進する集い」において優秀発表賞(演題名:「口腔内における各種センサを利用した生体情報の獲得と医科領域への応用」)を受賞させて頂きました。本大会は学際的交流を通じ、新しい研究分野の開拓と研究組織の結成を推進すること、また臨学一体を具体化することを目的としています。



私は、矯正歯科装置の1つであるアライナー型矯正装置に小さな温度センサを取り付けて口腔内温度を測定し、装置の装着時間を解析する技術を株式会社セイコーホールディングスとともに開発して参りました。これまでの研究において、口腔内温度を詳細にモニタリングできる方法を確認しており、将来的には本データを歯科領域のみならず医科領域に応用する事で病気の早期発見・予防に努められる可能性があるのではと考えております。

今回このような栄誉ある賞を頂き、大変光栄であるとともに今後の研究活動により一層精進していきたいと考えております。最後になりましたが、ご指導を賜りました歯科矯正学講座の榎宏太郎教授、芳賀秀郷講師、セイコーホールディングス株式会社の方々はこの場を借りて心より感謝申し上げます。

編集後記

口腔衛生学部門 石川 健太郎

本年度は様々な感染対策を講じたうえで各行事や教育カリキュラムが実施され、キャンパスにも学生の声に戻ってきました。お忙しい中にご寄稿くださいました先生方に感謝申し上げます。